

政務活動費 視察・研修会等 報告書(一心会)

視察都市 福岡県朝倉市

視察日時 令和 5 年 10 月 25 日 (水) 10 時 00 分 ~ 11 時 30 分

訪問先 秋月城址 (秋月観光 駐車場)  
〒838-0011 福岡県朝倉市秋月野鳥 7 8 0  
秋月城跡  
〒838-0011 福岡県朝倉市秋月野鳥

参加者 園田基博 工藤英人 北川久人 石渡宏明 小島 強

視察目的 秋月城址における歴史的風致と観光振興を学び、  
桐生市の観光資源化に寄与する。

**■ 視察内容:**

案内人: 秋月学校 ガイドボランティアの会 白木 房代 氏  
江頭 喜代子 氏

**◎ 朝倉市の概要:**

- 福岡県の中南部に位置し、筑後地域にあります。  
面積 246.71km<sup>2</sup>、人口 50,624 人(2023 年 08 月末日)  
本市の南側は盆地であり、北側には古処山をはじめとする 600~900m 級の山々が連なります。この山地の中に福岡県両筑地域の水資源供給の役割を担う寺内ダム・江川ダムがあります。また市域の南側には、境界にほぼ沿う形で筑後川が流れています。

## ◎ 秋月城址の概要

- ・ 秋月種雄が鎌倉時代に古処山の山頂に本城を構えたことにはじまります。  
豊臣秀吉によって日向高鍋へ移され、その後、小早川隆景を経て、1623年から初代黒田長興が支配することになります。



- ・ 秋月城は、福岡藩主黒田長興が寛永元年秋月に入り、陣屋形式として整備されています。この城の前身は、秋月を知行地として与えられていた長政の叔父、黒田直之の居館であり、直之の死後10年以上放置されていました。城内は表御殿と奥御殿の二つに分かれ、背後に山、前面に堀・石垣・櫓を設け、出入口は前面の二ヶ所のみです。



- ・ 秋月の街路は、まちの入り口が折れ曲がり、まちの格所にT字路やカギ型路があり、袋町等の袋小路も設けられています。城下町に特有な造りであり、城下防衛対策の一つとして、町の見通しが出来ないよう意図的に造っています。



- ・ 秋月城下は、水路が張り巡らされており、武家地と町人地に分けられています。武家地は小路で区切られたブロックを基準としており、町人地は東西に街道沿いの街は西から魚町（下町）、仲町、新富町（上町）と称されています。



- ・ 井戸水の代わりに飲料水確保のため野鳥川を源流とする人工水路の整備行われています。この水は、武家屋敷内にも流れており洗水、浴用水などの日常生活用水と使用されていました。



- 野鳥川をはじめとする秋月の河川や水路には川床に石を敷く「護床工」という治水技術が施されています。川には大きな石が、水路には平たい石が敷き詰められています。これは、水底の浸食を防ぎ、流れを緩やかにする効果があります。野鳥川は、水量も多く、番所橋から小石橋の合流地点まで 1.9 km、標高差 45m と急勾配を流れています。



- 杉の馬場の由来は、秋月藩時代には道路両側に大きな杉の大木が生い茂っており、藩士たちの登城道路でありことから乗馬や調馬をしていたことに因んでいます。江戸中期に杉は伐採され、日露戦争の戦勝記念として、当時の町長提案により町民が桜の木を植樹したと言われていています。前長 500 m の道路の両側に約 200 本の桜の木があります。



- 秋月城長屋門

長屋門は奥御殿へと至る門であり、唯一城内の原位置に残っています。昭和 62 年より解体修復工事を実施し、嘉永 3 年 (1850) に建てられたことが分っています。



- 緒方春朔は、エドワード・ジェンナーの考案した牛痘を用いた方法ではなく、天然痘患者から採取した膿（痘痂）を使った方法（人痘法）であり、春朔の人痘法は、ジェンナーの牛痘の種痘よりも 6 年早く始められています。確実性を増すために木製のへらに盛った痂粉末を鼻孔から吸引させるという方法を考案しています。春朔は、秋月藩八代藩主黒田長舒に召抱えられ、藩医となっています。



- 朝倉市立秋月中学校は、秋月城跡内にあり、生徒が通う現役の木造校舎の佇まいは城下町秋月のシンボルとなっています。



↑ 景観に配慮した消火栓



↑ 稽古館跡（現 秋月美術館）



↑ 黒門（薬医門）

#### ◎ ガイドボランティアの問題点について

- 秋月の伝建地区や朝倉地区等では、市民によるボランティアガイドが活躍しています。ただし、現在のボランティア活動が特定の地区にとどまっており、市域全体においては歴史文化遺産を大事に思っ支えつつ、語り部となるような人材が不足しています。

#### ◎ 朝倉市の歴史文化遺産の問題点について

- 歴史文化遺産の管理については、基本的に所有者が行っています。所有者のみが一元的に管理を負っており、限界があるため、活用に至っていないものもあります。
- 山間部での少子高齢化が進んでおり、特に高木神社の宮座や杷木の泥打ち等で子どもの担い手が激減して祭礼行事が変化しています。

#### ■ 視察成果による当局への提言または要望等：

この地域において文化を継承する後継者育成は大きな課題となっています。また、歴史・文化遺産の保存・管理においても個人所有となっているため活用ができない事例があるとのこと。伝統工芸の事例ではありますが、後継者不足の解消のために、福岡県朝倉市の工芸品「甘木絞り」を手掛ける方が絵本づくりの取り組みをしています。子どもでも親しみやすい絵本にして、伝統工芸の魅力や今後どのようにしたら伝統を守っていけるのかについて分かりやすい物語で伝えています。

同様に次世代につなぐプロジェクトとして桐生市の歴史・文化的内容を分かりやすい内容の絵本やアニメーションなどを作成にして、SNSなどに掲載することを提案します。また、織物の街桐生の特性を活かして布の絵本を一冊作成してもよいと考えます。

以上